



慣習的に長男が優先的に継承し女性が排除されてきたトートローマー（位牌）継承問題を話し合う女性団体の代表ら = 1980年1月23日、婦人会館

農連市場の移転に反対し、商いを開店休業してプラカードを手に立ち上がった生産農家や業者たち = 1981年6月5日、那覇市与儀の農連市場



女性は結婚退職が当たり前とされ、実質女性職場であるバスガイドの35歳定年制を違法とする裁判が行われている中で開かれた国際女性デーの討論会「働きますわよ60まで集会」に登壇する城間佐智子さん（左）と憲法学者の若尾典子さん = 1988年3月12日



自らの経験を子どもに伝えて「二度と戦争をさせてはいけない」と熱い発言が続いた「戦争を許さない女たちの集い」 = 1981年8月8日、官公労共済会館



男女の「平等」を求めて、全国の女性たちとも連帯して運動を展開した。東京・日比谷公園での集会後、デモをする沖縄と全国の女性たち。「平等法」は、コストアップを嫌がる経済団体の反対で「男女雇用機会均等法」となった = 1985年3月頃、東京都内（大城貴代子さん提供）



海邦国体は県民の大声援を受けて女子・男子ともに総合優勝し、当時の西銘知事が「沖縄の戦後は終わった」と述べた。多くの選手がその後、指導者として活躍し、沖縄スポーツ界を支える。（写真右）決勝を制した少年女子ハンドボール = 1987年10月29日、東風平町営体育館、（写真左）バレーボール女子9人制で優勝した琉銀 = 10月29日、宮古島総合体育館



親泊康晴那覇市長を訪ね、「日本女性会議'89なは」「うないフェスティバル'89」の開催要項を発表する両実行委員会 = 1989年10月3日、那覇市役所



3人の米兵による少女への性暴力事件に県民の怒りが最高潮に達したと言われ、復帰後最大規模となった8万5千人が集まった県民大会＝1995年10月21日、宜野湾海浜公園



北京で開かれた世界女性会議NGOフォーラムには県内から71人が参加し、女性への人権侵害が相次いだ戦後沖縄の状況を報告していた。そのさなかに少女への性暴力事件が起きた。県内の女性団体代表らで構成するNGO北京'95沖縄実行委員会は、県婦人連合会や県婦人団体連絡協議会と連携して3日間にわたる抗議集会を開いた＝1995年9月23日、県内



少女が被害者となった米兵による性暴力事件に抗議する要請行動に出発する「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」のメンバー＝1995年11月17日、那覇空港



女性初となる尚弘子副知事が県議会本会議に初登壇＝1991年10月1日



那覇市の市民女性学特別講座で講演したベアテ・シロタ・ゴードンさん。終戦直後にGHQ民政局で日本国憲法草案づくりに関わり、男女平等など人権条項を盛り込むよう働き掛けた＝1997年4月20日、県女性総合センター（宮城晴美さん提供）



県女性総合センターで開館し、女性副知事サミットが開かれた。県内からは東門美津子副知事が登壇＝1996年7月27日



軍用地料の分配を男性に限定するのは憲法違反として金武町内の女性が起こした「**杉山訴訟**」で勝訴し、最高裁から出てくる原告の女性たち。男子孫に限るとした部落会の会則は無効と認定された = 2006年3月17日、最高裁



カチャーシーを舞い再開を誓い合った世界のウチナンチュ大会のフィナーレ。各国からウチナンチュの女性たちが集まった = 2001年11月4日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター



医師不足から閉鎖も懸念されていた県立北部病院の産婦人科の貼り紙。この数年、北部や離島で産婦人科の診療制限や休診が相次いだ = 2004年8月4日



離島を含めた県内全域の母子総合医療を担う県立南部医療センター・こども医療センターの開院を祝う関係者ら = 2006年3月16日、南風原町新川

第42回衆院選挙で県内初の女性国会議員に当選した東門美津子さん。喜びのカチャーシーに湧く選対事務所で「沖縄の女性の力強さをあらためて感じた」と語った = 2000年6月25日、沖縄市の選対事務所



参院補選で初当選した島尻安伊子さん。2期目の2015年には沖縄北方担当相として県内女性として初入閣した = 2007年4月22日



糸数慶子さんは2004年の参院選で初当選、06年の知事選で落選したが07年の参院選で返り咲いた = 2007年7月29日、那覇市の選挙事務所

全国的に貧困問題が注目される中、内閣府男女共同参画局の調査で高齢の単身女性は2割が年収120万円以下の厳しい状況にあることが分かった(2008年)。県内で行われた炊き出しで76歳の女性は「体調が悪くて仕事ができない」と訴えた = 2009年12月27日、那覇市の与儀公園



2001年、県内の1小学校と3高校が男女混合名簿を導入し、「男子が先、女子が後」の見直し本格的に始まった。入学式で五十音順で席に着く新1年生 = 2004年、西原町の坂田小学校



米国人とアジア人の間に生まれた子どもたちが通うアメリジャン・スクール・イン・オキナワの創立十周年パーティーが開かれ、多文化教育を実現しようと母親たちの活動から始まった歴史を振り返った = 2008年6月1日、宜野湾市内



米軍基地撤去とオスプレイの配備反対を訴え、フェンスに赤いリボンやガムテープを結び付ける「カマドゥー小たちの集い」メンバーと、リボンをはがす米兵＝2013年4月19日、宜野湾市の野嵩ゲート付近

うるま市で発生した米軍属による女性への性暴力殺人事件に抗議する県民大会に6万5千人(主催者発表)が参加し、海兵隊撤去を求めるメッセージカードを掲げて怒りを共有した＝2016年6月19日、那覇市の奥武山陸上競技場



花を手に、性暴力を許さない思いで被害者に寄り添う「フラワーデモ in 沖縄」が県内で初開催され、女性たちが約1時間にわたって発言し思いを共有した。全国各地で毎月11日に実施＝2019年8月11日、那覇市の県民広場



多様な性を認め、性的少数者(LGBT)の人たちが生きやすい社会を目指すイベント「ピンクドット沖縄」が国内で初めて沖縄で開かれた。のべ800人が集まり、周辺をピンク色に染めた＝2013年7月13日、那覇市ぶんかテンプス館前広場

玉城知事を塾長に、女性たちが自身の能力を高め、活躍できる人材の育成と、互いに刺激し、励まし合いながら成長できるネットワークづくりを目的とした「ていする塾」が開講＝2019年9月12日、那覇市の県男女共同参画センターでいる(おきなわ女性財団提供)



DVやストーカーへの対策を強化するため、県警に「子供・女性安全対策課」が新設された＝2014年4月1日、那覇市の県警本部



2017年12月、米軍ヘリが機体の一部などを宜野湾市の普天間第二小と緑ヶ丘保育園に落下させる事故が相次ぎ、保護者らが全国、海外にも危険性を訴えた。地域で報告会を開く保護者ら＝2018年3月11日、宜野湾市民会館